

学術資源情報の共有と「場」の創出: 学術資源リポジトリ協議会の活動の展開

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/40145

学術資源情報の共有と「場」の創出 ～学術資源リポジトリ協議会の活動の展開～

高田 良宏*1, 林 正治*2, 堀井 洋*3, 堀井 美里*3, 山地 一禎*4, 上田 啓未*1, 古畑 徹*1

(*1 金沢大学, *2 一橋大学, *3 合同会社AMANE, *4 国立情報学研究所)

yoshihiro@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

概要 資料館でも利用できるリポジトリの構築を目指した金沢大学資料館 Virtual Museum プロジェクトに端を発した学術資源リポジトリ協議会は、大学の枠組みを超え、研究者、博物館・資料館実務者、企業など、様々な立場や思想を持つ参加者が機関横断的な学術資源リポジトリの実現のために、学術資源情報の共有・公開・活用に関する議論と試行を行う「場」と人的ネットワークを創出することを目的として活動している。

VMから協議会へ

VMプロジェクト

金沢大学 Virtual Museum Project (通称, VMプロジェクト)

規模の小さい資料館などで有効な、所蔵資料の**データベース機能**と

Web上での**仮想展示機能**を有した

非文献資料リポジトリの構築と運用

<http://kuvvm.kanazawa-u.ac.jp/>

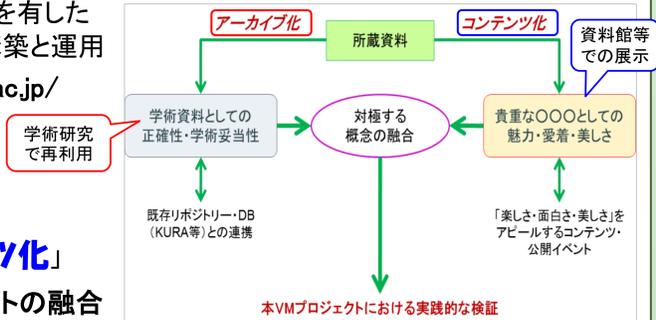
基本コンセプト

学術資料の

「**アーカイブ化**」と

「**展示公開・コンテンツ化**」

2つの対極にあるコンセプトの融合



VMプロジェクト⇒研究会⇒協議会

■ 2009(平成21年) VMプロジェクト活動開始

■ 2011(平成23年) 非文献資料リポジトリ研究会活動開始

VMプロジェクトに関わっている研究者・実務者を中心に、非文献資料に興味を持つ者が集まり、研究会を立上げ活動。

■ 2012(平成24年) 学術資源リポジトリ協議会設立

同年6月開催の大学博物館等協議会・博物学会の開催に合わせ設立総会を実施。大学等からだけでなく、企業・自治体からの参加を意識し、「研究会」から「協議会」に変更。

文献資料との連携は不可欠であり、さらに、対象資料が博物館や資料館に納められるような貴重資料にとどまらず、研究者が収集する歴史的資料・標本類・実験観測データから文献等まで広範囲であるので、「非文献」から「学術資源」に変更。

今回の範囲:協議会の活動

研究活動と連携した活動

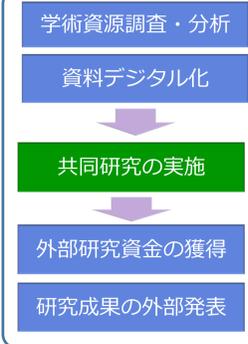
学術資源リポジトリに関する
コーディネーション

研究プロジェクトを基盤
とした学術研究活動支援

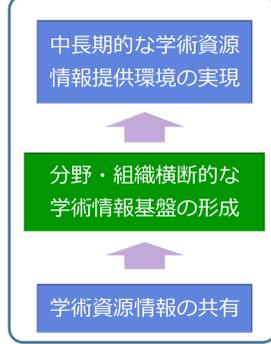
学術資源情報環境の
提供・連携



「研究プロジェクト」を基本
単位として活動を実施する

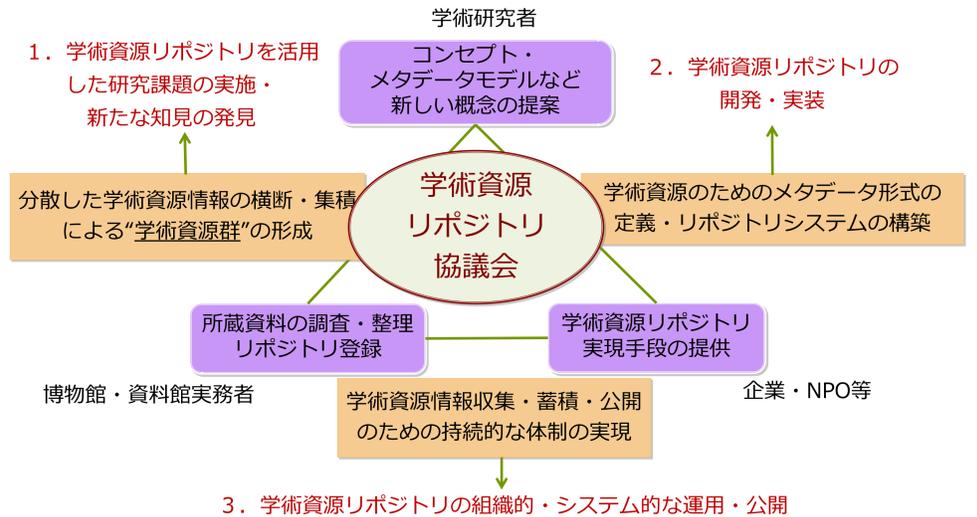


研究者が中心となって学術
資源調査・リポジトリ構築
を実施する



隣接研究分野・既存リポジ
トリとの連携を意識

情報共有のための組織形成と「場」



科学実験機器資料プロジェクト

明治・大正・昭和戦前期に海外から輸入または国内で製造され、旧制高等学校等の教育機関で使用された科学実験機器資料の地理的および時間的な分布状況に関する俯瞰的・横断的な調査・分析を行い、機関・分野横断的な情報共有・検索環境を構築・整備し、議論の場を設け、情報の収集・研究の進展をめざす。

現在公開中のリポジトリ

- 金沢大学資料館 Virtual Museum Project
金沢大学資料館蔵: 187件
- 学術資源リポジトリ協議会 816件
新潟大学蔵: 20件, 東京大学駒場博物館蔵: 22件
神戸大学蔵: 21件, 石川県立自然史資料館蔵: 753件

CARL ZEISS 製 顕微鏡



教育掛図資料プロジェクト

明治期以降、海外から輸入または国内で出版、独自に制作され、初等から高等教育機関で視聴覚教材のひとつとして使用されてきた掛図・教示図等について、由来や作者、作成状況や方法、教育現場での使用実態、歴史的背景等に関する調査・研究を行い、情報共有・学術資源化をめざす。

現在公開中のリポジトリ

- 金沢大学資料館 Virtual Museum Project 272件
金沢大学附属図書館蔵: 211件, 金沢大学資料館蔵: 61件
- 学術資源リポジトリ協議会
石川県立自然史資料館蔵: 123件(公開準備中)

金沢大学蔵 教育掛図



情報交換 議論

学術資源リポジトリ開発プロジェクト

学術資源情報の記述および蓄積、共有および公開の実現と、これらの機能を有するリポジトリシステムの実現をめざす。

現在の研究課題

- 学術資源情報記述のためのメタデータ形式の開発
DC エレメントベース ⇒ **LIDO**へ
- **WEKO**モジュールの拡張
- リンク画像表示(スマホ対応)
- RDFマッピング機能
- Linked data出力機能

LIDO(Lightweight Information Describing Objects)

- ✓ 博物館資料情報のためのXMLハーベスティングスキーマ
- ✓ 国際博物館会議ドキュメンテーション委員会WG「Data Harvesting and Interchange Working Group」が標準化
- ✓ CDWA Lite, museumdat, CIDOC-CRM, SPECTRUMIに関するグループが仕様策定に参加
- ✓ 芸術・文化・技術・自然科学に関するあらゆる資料情報の表現が可能
- ✓ 博物館資料リポジトリ(資料管理を含む)等のポータルサイト構築を想定

学術資源リポジトリ協議会 <http://amane-project.jp/hibunken/>

【連絡先】事務局: E-Mail: info@amane-project.jp

本協議会のプロジェクトの一部は、科研費(基盤研究(B)24300310, 挑戦的萌芽研究25560140)によるものである。実施に際して協力頂いた大学・自治体博物館をはじめとする関係機関ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。